

白粉に夢をみる

2011年の年末、酸化チタンという白粉に自分の人生を委ねた。当時、D3で第二子臨月間近の著者は次年度の自分の居場所を知らない、というか決まっていなかった。光電気化学をベースに走り続けた学生時代から、少しだけ立ち止まってどこか太陽の輝く場所でバカンスでもしてみてもどうか、と思ったりもした。そんな著者が今、半導体固体光触媒という白粉に夢を、無限の可能性をみている。光は素晴らしいにつきる思いをありのままに綴った。・・・